

別記様式（第2条関係）

会 議 結 果 報 告 書

令和5年4月25日

会議の名称	政策推進会議
開催日時	令和5年4月11日（火） 14時00分～16時00分
開催場所	庁議室
出席者職氏名	〔担当部課〕 松田政策推進課長、渋谷政策推進課主席主幹、中森政策推進課主席主幹、小高政策推進課主査 〔政策推進会議メンバー〕 村山総合行政部長、豊島総務部長、尾崎人事課長、川幡財政課長、松永市長公室長 〔関係部課〕 中村福祉部長、細田都市整備部長、的場共生社会推進課長、渋谷長寿応援課長、滝田都市計画課長、園原都市計画課副課長、柳下共生社会推進課主幹、福永都市計画課主査、櫻井共生社会推進課主事 (計17人)
欠席者職氏名	(計 0人)
説明員職氏名	松田政策推進課長、滝田都市計画課長、的場共生社会推進課長、渋谷長寿応援課長 (計 4人)
議 題	交通政策について
結 果	6月下旬開催予定の議員説明会に向けて、関係課で資料をまとめ、財政課と協議する。
事務局職員職氏名	中森政策推進課主席主幹、小高政策推進課主査
その他必要事項	

会議内容の記録（会議経過、結論等）

1 開会

渋谷政策推進課主席主幹が開会を告げる。

2 審議事項（政策推進会議メンバーはメンバーと表記する。）

関係部課より交通政策の現状状況の説明を行うとともに、今後の方向性について審議を行った。

<路線バス志04系統について>

- ・滝田都市計画課長より説明。志木駅から柳瀬川駅を結ぶバス路線について、令和5年度中に廃止すると令和4年12月に国際興行バスより申し入れがあった。廃止の理由としては、車両の部品が製造中止となっており、代替の車両はホイールベースが長く回転半径が大きくなることから、現在のルートを走行することが困難であることが挙げられている。

<デマンドバスについて>

- ・滝田都市計画課長より説明。利用状況については、コロナ禍は減少したものの、全体としては増加傾向。制度も浸透してきており、問い合わせ、要望は減少している。
- 一方で議会では、料金体系について、宗岡地区から駅や病院に行くに当たって料金が高く、利用しづらいという市民の声をいただいているという議員よりご意見が出ている。ふれあい号の廃止も含めて、デマンド交通については料金を見直すことで、利用促進を図っていきたい。

<シェアサイクルについて>

- ・滝田都市計画課長より説明。実証実験の終期は令和4年3月から2年延長して、令和6年3月までとしている。令和6年4月以降については、本格実施に移行していきたい。朝霞地区4市でも同じ事業者で実証実験をしており、担当者レベルでは、本格実施していく意向がある。本格実施に当たっては、事業者の公募をした方が良いのではという意見もある。

<ふれあい号見直しに係る対応について>

- ・的場共生社会推進課長より説明。ふれあい号見直しに係る対応として、志木市社会福祉協議会において、総合福祉センターの就労継続支援事業所Bの通所者に

対する送迎サービスを令和5年5月から開始する。市内の他の就労継続支援事業所では、既に送迎を実施しているため、社協も同様の送迎方法を取ることで、今後、公平性が担保されることとなる。市からの支援については、福祉サービス上の送迎加算を支払う。

志木市社会福祉協議会では、社会情勢や車両の改造など納車に時間がかかることを踏まえて、既に福祉車両の発注作業を進めており、令和5年5月に納車する予定になっている。納車後は速やかに送迎サービスを開始し、ふれあい号からのスムーズな移行につなげていくことになっている。送迎は志木市社会福祉協議会の職員が行う。

< 運転免許証自主返納啓発事業 >

- ・ 渋谷長寿応援課長より説明。ふれあい号廃止に伴う高齢者への新規事業として、運転免許証を自主返納した方に交通系ICカードによる補助を考えている。近隣では朝霞市が実施している。対象者や補助額については、今後検討していく。

< 議員説明会 >

これらの現状・検討結果を踏まえた交通政策の基本方針について6月下旬に議員説明会を開催する。

- ・ 松田政策推進課長より流れを説明。

1. 概要

各交通施策については、市民の足として活用される一方、市民からさまざまな要望があるとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等の影響により、近年ではその利用状況にも変化がみられることから、地域共生社会の視点も踏まえつつ、住みやすいまちづくりを推進するための市民の足の確保を目的に、全庁横断的に市の交通施策の見直しを検討する。

2. 個別事業の検討

(1) ふれあい号運行事業

利用者数については、年々減少傾向にあり、令和2年度は新型コロナ流行による福祉施設の休館があったため、大きく減少している。令和3年度は前年度より利用者が増加しているが、過去6年間で見ると減少傾向にある一方で、運行委託料については、年々増加している。

以上のことから検討結果としては、利用者の減少や費用対効果の観点から廃止する。

(2) デマンド交通運行事業

利用者数についてはコロナ禍により減少したものの、全体としては登録

者数も増加しており、市民の足として定着している。一部地域からの利用は乗車距離が長くなり、乗車料金が高く利用しづらいという意見がある。

乗合型デマンド交通の導入を検討したが、既存の交通事業に与える影響が大きいことから導入は困難である。

以上のことから検討結果としては、次の通り。

- ・現状のデマンド交通については、利用者も多く、市民の移動手段として有効性が高いため、今後も事業を継続する。
- ・一方で、長い距離を利用する際は料金が高いという課題があることから、料金形態については見直しを検討する。
- ・乗合型デマンド交通については、課題が多く導入は困難。

(3) シェアサイクル実証実験事業

本格実施する場合の事業者選定方法については、検討が必要である。また、以前から議論となっている行政財産使用料については、徴収することとした場合、採算性の低いステーションは撤去となる可能性が高い。

以上のことから検討結果としては、次の通り。

- ・利用者も増加し、市民の足として定着してきていることから、本格実施へと切り替える。
- ・市全域にステーションが設置されることで、公共交通機能を補完する役割を担うことができるため、公共用地についても、引き続き無償で提供していく。

(4) 民間バス路線への補助事業

志04系統の廃止について説明する。

コミュニティバスの導入については、検討した結果、次の課題があるとの結論に至った。

- ・バス路線については、9平方キロメートルの小さな市域に路線は20系統、バス停は100か所以上あることから、既存の交通機関の運営に影響を及ぼすコミュニティバス等の新たな交通施策の実施は民業圧迫の観点から難しい。
- ・深刻な運転手の不足や、昨今のコロナ禍及び燃料価格の高騰等による経営環境の悪化から、路線バスでは、26年ぶりに運賃の値上げをせざるを得ない厳しい状況下にある。
- ・バス停の数については、時刻表通りに運行するために、ふれあい号の半分程度にする必要がある。

以上のことから検討結果としては、次の通り。

- ・志04系統の路線バスについては、廃止となる。

・コミュニティバスの導入については、既存バス路線の減便や撤退に繋がりにかねない等の理由により導入は困難であることから、他の交通施策の拡充により廃止による影響をカバーする。

(5) その他、交通施策を補完する施策について

・高齢者の運転免許証の自主返納を促進するとともに、返納後の移動を支援するため、交通系 I C カードの配布等の支援策を検討する。

3. 令和6年度以降の交通施策の方向性（まとめ）

廃止の方向で検討するものは、

- ・ふれあい号
- ・路線バス志04系統（民間事業者の事情によるもの）

新規・拡充の方向で検討するものは、

- ・デマンド交通の料金の見直し
- ・シェアサイクルの本格実施
- ・運転免許証の自主返納の促進（新規事業）

とする。

これらの方向性について令和7年度までのスケジュールを示す。

4. 今後のスケジュール

生活への影響が大きいことから、この方向性をもって、意見公募をする必要があると考える。

○質疑

メンバー：交通政策の基本方針の決定は意見公募後ということで良いか。また、市民説明会は行うのか。

担当部課：まずは議員説明会を開催し、意見公募を経て方針を決定してから、予算要求と考えている。

また、特にふれあい号については総合福祉センターなどで市民説明会を開催する必要があると考えている。

メンバー：市民説明会は開催する方向で進めること。

メンバー：デマンド交通については、料金の見直しによる財政への影響などについてしっかりと精査して財政課と調整する必要がある。

志04系統については、例えば市でバスを用意する、または代替車両の購入費用を補助するなどといった手段をとる余地はないのか。

担当部課：金額的な問題ではなく、走行が可能な小さいバスがないので物理的に無理である。

メンバー：他のバス会社でも無理なのか。

関係部課：バスの製造自体が中止となっているので無理だと考えている。念のため他のバス会社にも確認する。

メンバー：ふれあい号や朝霞市を走っている循環バスと同じぐらいの大きさだが、志04系統とは違うのか。

関係部課：大きさは一緒だが、志04系統のバスはホイールベースが小さいので小回りが効く。ホイールベースが小さいバスは製造されていない。

メンバー：乗客人数を減らして、もっと小さいバスを導入するのはどうか。

関係部課：その案についても話したが、バス会社より市の補助に関わらず業務は受けられないという回答をいただいている。

メンバー：志木の杜は停まるのか。

メンバー：志木の杜を通る路線は、志04-3であり、今回廃止となる路線とは別である。

関係部課：バス会社からは志木の杜の駐車場については継続できるよう努力するとされている。

メンバー：志04の廃止に対する代替事業について検討したか。

担当部課：代替案を検討した際に、乗り合い型のデマンド交通でバス会社からも提案いただいたが中心部は混み合うので管理運行が厳しい。また、市内全体をカバーするためには4台程度は必要であり、事業費が高額となることから、代替事業としては厳しい。

コミュニティバスについては、他市の状況を見ると大体が赤字であり、財源を投入している状況から導入は厳しい。また、ふれあい号のルートをコミュニティバスで回ることを検討してみたが、どこでも乗降できる仕組みを考えると、バス停を減らさないと運行は厳しい。

これらを検討した結果、直接的な代替は不可能に近いことが分かったことから、交通政策として市民の利便性向上に寄与するものとして、デマンド交通の料金値下げや免許返納が挙げられた。

メンバー：方向性はこれで良いと思う。ただし、代替事業等の見込みについては精緻なものなのか改めて検討してもらいたい。

担当部課：特にデマンド交通利用料金の引き下げについては、引き下げによる利用の伸びなども含めて、精緻に財政負担をシミュレーションしてもらいたい。

メンバー：ふれあい号は福祉施策である。福祉施策と交通弱者政策を一緒に考えてしまうのは違うのではないか。

担当部課：デマンド交通も対象者を65歳以上の方と障がい者と妊婦としていることから、見方によっては福祉施策の要素もあるのでトレードオフと考え

られる。ただし、将来的に高齢者も増えていく中でデマンド交通の対象者の見直しも必要だと思う。

メンバー：ふれあい号廃止に向けたスケジュールはどのようになっているか。

担当部課：6月下旬に議員説明会を開催し、その後意見公募を実施する。ふれあい号廃止については11月頃の広報に掲載予定。

担当部課：シェアサイクルを本格実施する際はプロポーザルを実施するのか。

関係部課：選定方法については4市で調整する必要がある。

担当部課：行政財産使用料を徴収するとなると撤退してしまうか。

関係部課：全面撤退にはならないが、ステーションの場所はかなり減ることが予想される。

関係部課：現状、黒字となっているステーションが少ないことから、行政財産使用料を徴収する形で募集しても手は挙がらないと思う。

関係部課：シェアサイクル事業の委託部分を無償でやってもらえているという考えもある。

担当部課：本格実施に向けては、議員説明会までにもう少し議論することとする。

担当部課：免許返納についてはどうか。

メンバー：志木市の免許返納者数はどれくらいか。

関係部課：令和3年度では65歳以上の免許保有者数が8,181人で返納者が365人。75歳以上は143人。

関係部課：70歳以上だと320人。70歳～74歳の区分が一番多い。

担当部課：1回で全額チャージするのか。

関係部課：1回のチャージのみ。都度のチャージは行わない。

メンバー：本来は、返納すべき人が返納したり、家族に促されて返納するものであって、わざわざ実施する必要があるのか。

関係部課：免許返納のインセンティブにはなると思う。

メンバー：朝霞市ではインセンティブになったかどうか、確認してほしい。

メンバー：志木の状況を把握してから制度設計した方が良いと思う。

メンバー：デマンドタクシー券みたいなものはできないか。

関係部課：タクシー会社と協議してみないと分からない。

関係部課：場合分けが細かくなるので、難しいと思われる。

担当部課：代替事業・新規事業は交通政策として進めていくが、予算に当たっては関係課よりサマーレビューに出してほしい。

○結論

6月下旬開催予定の議員説明会に向けて、関係課で資料をまとめ、財政課と協議す

る。

3 閉会

渋谷政策推進課主席主幹が閉会を告げる。

備考 会議内容の記録には、発言者の立場を明記するとともに、発言の趣旨が容易に理解できるよう簡潔明瞭に記載すること。